

行仙宿から俱利伽羅岳北側までの奥駈道点検・整備

◇実施日 9月17日(日)

晴

◇参加者 梶野照雄

1名

9月7日に雨が降る中、NHKの日本百名山取材班を前鬼で出迎え岡本ディレクターに登山道の様子をお伺いした所「行仙宿から持経宿の間に倒木が3〜4本あり、大きな一本は回り込む道が出来ていない。持経宿の照明は5分ほどしか点灯しなかった。」との情報を得た。また9月10日に熊野修験秋峰一行を吉野で出迎えた際、花井行者から「釈迦ヶ岳からはそれなりに倒木がありました」と聞かされた。



本日の装備



行仙宿に着く



行仙岳山頂で

持経宿から前鬼までは2年間巡視を行っていないので、倒木があつても不思議ではないと思ひ、手始めに日帰り可能な行仙宿から俱利伽羅岳までを整備することにした。

午前9時に補給路登山口に着きモノレールで登り始める。気温はまだ高いが少し吹いている風に秋を感じる。午前9時40分に行仙宿に到着、帰り用の冷やした飲料とカップ麺を小屋にデポして行仙岳を目指す。最初の登りは日差しが強く暑いのでゆつくりと歩き、40分弱で行仙岳に到着する。



倒木を排除

大きすぎて処理できず



怒田宿跡の枝



山頂から下りだしてすぐ、直径20cmほどの腐った木が道の中央に鎮座していた。落ちた拍子に栈木が外れて下向きになっていた。倒木を排除して栈木を元に戻すが、隙間がかなり広く、多少の工事が必要だ。行仙岳捲き道分岐を過ぎたところに直径が60cm位の大木が道を塞いでいる。下側にはこの木を迂回する形で踏み跡がついていた。岡本ディレクターが話していた大きな木はこれだった。半分

ほどは腐っているが持つてきたチェーンソーでは歯が立たず、処理は次回とした。怒田宿跡では大きな杉の枝が折れて転がっていた。西側斜面迄引きずって排除した。



でとし、引き返した。鞍部に水色のスタップバッグがあり、中にシートなどが入っているようだ。重くはないので背負子に括って行仙宿まで持つて帰ることにした。

俱利伽羅岳

倒木を切除

倒木を切除

残されたバッグを持ち帰る

支障木を処理

ここから暫くは何も異常が無く、落ちている枯枝を排除しながら進む。俱利伽羅岳の登りにさしかかり歩みは極端に遅くなる。順峯の場合、五大尊岳、大森山、笠捨山など、厳しい登りが続くが、俱利伽羅岳の登りもかなりの急登だ。俱利伽羅岳の山頂で昼食と休憩し、北側の鞍部に降りる。下りきるまでに横たわる倒木がありチェーンソーを使って切除する。直径は10cm程度なのですぐに終わるはずだったが、エンジンの調子があまり良くなく切断に1分以上かかってしまった。下の方を見ると斜木が2本見える。いずれも腐って折れ曲がったもので、切断して排除するのに時間はかからなかった。今までもこの付近に倒木が集中していたので、見込んでいた通りの結果となった。この先は転法輪岳への登りになるので今日はここま

帰り道で頭が当たるようになっていたシロヤシオを切除し、行仙岳は捲き道を通って小屋に戻った。捲き道も落ちている枝が多数あり、大部分は排除したが小枝が多数残っている。捲き道そのものに異常は無い。小屋に戻ると宿泊する登山者が一名おり、夕食の準備中だった。お湯を沸かしてカップ麺が出来上がるまでにチェーンソーを倉庫に入れてカップ麺でお腹を満たし、よく冷えた飲料を飲んで一息ついた。宿泊者は玉置山から登ってきて明日は玉置山まで戻って本宮大社へ行くそうだ。照明を説明、戸締りの確認をお願いして下山した。

(記：梶野)



行仙岳捲き道を進む



宿泊者一名



ガスがかかった行仙宿

行動タイム

09:00 補給路登山口→09:40 行仙宿→10:27 行仙岳→10:55 怒田宿跡→12:36 俱利伽羅岳・昼食→13:25 俱利伽羅岳北側鞍部→15:52 怒田宿跡→16:16 行仙岳捲き道分岐→16:50 行仙宿 17:22→17:55 補給路登山口